

この地球上には、多種多様な生きものが森林、河川、海、湿地など様々な環境で生息・生育しており、地域環境の中で進化の歴史を経た生きものは、同じ種の中でも一つひとつに遺伝子レベルでの違いがあります。この豊かな自然環境の中で、様々な生きものが互いにつながりあい、「バランスを取りながら」生きています。

本プランでは、「生きものの「個性」と自然とのつながりの豊かさ」を「生物多様性」と呼んでいます。

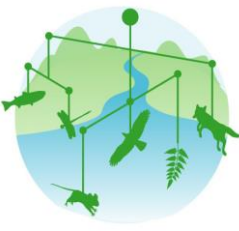


生物多様性条約では、「多様性」には「種の多様性（種間の多様性）」、「生態系の多様性」, 「遺伝子の多様性（種内の多様性）」という「3つのレベルの生物多様性」があるととしています。

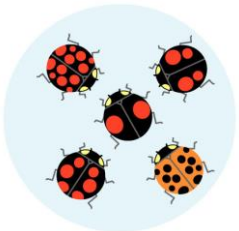
**種**の多様性  
様々な種類の生物が生息・生育していること



**生態系**の多様性  
森林・草原・河川など、様々な形態の自然があること



**遺伝子**の多様性  
同じ生きものの種類の中に、遺伝子による様々な違いがあること



出典：こども環境白書 2012, 環境省

また、豊かな生物多様性に支えられた生態系は、私たち人間を含む生きものの「いのち」と「暮らし」を支える恵み（生態系サービス※）をもたらす、人間の福利に貢献しています。

※基盤サービス：酸素の供給、気温・湿度の調整 など

供給サービス：食べ物や水、木材、葉などの提供

調整サービス：暴風や洪水による被害の緩和、山地災害・土壌流出の防止 など

文化的サービス：豊かな文化・芸術の形成、レクリエーションや観光の場と機会の提供 など



環境省 HP (<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/sokyu/sokyu03.html>) をもとに作成

これらの恵みによって私たちの生活は物質的には豊かになった一方、人間活動により、世界的に生物多様性と生態系サービスは悪化し続けています。

生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書（IPBES 2019）より

- ・過去 50 年の間、人類史上かつてない速度で地球全体の自然が変化
- ・このままでは生物多様性の損失を止めることができず、持続可能な社会は実現できない
- ・自然劣化の直接的・間接的な要因を大幅に減少させ、生物多様性の損失を止め、回復させるためには、経済・社会・政治・技術全てにおける横断的な社会変革が必要

このような世界的な生物多様性と生態系サービスの劣化の状況を踏まえ、今後も、自然を損なうことなく自然の恵みを継続的に享受していくためには、従前からの自然環境保全に取り組むことに加え、社会や一人一人の価値観や行動の変容、社会経済全体の変革が必要との認識が国際的に広まってきています。